



ニンニク（ユリ科ネギ属）

中央アジア原産と推定されるヒガンバナ科の多年生草本で、生育適温は15〜20度、暑さに弱く、寒さには比較的強い野菜です。栽培は秋に種球を植え付け、初夏に収穫します。

強い香りの成分は硫化アリルで、体内で豊富に含まれるビタミンB1と結合すると疲労回復効果があります。

【品種】温暖地向きでは「平戸」「嘉定」「上海」など、「ニューホワイト六片」は寒冷地から温暖地にも向く品種です。

【畑の準備】 植え付け2週間前までに、1平方m当たり苦土石灰200gを施して土に混ぜてお

き、1週間前に化成肥料（NPK各成分10%）100gと完熟堆肥を2kg施します。その後、幅70〜100cmの畝（ベッド）を作り、

穴の間隔が15cm程度の黒マルチフィルムを張ります（図1）。

【植え付け】 9月上旬ごろに休眠が明けてくるので、種球を小片（鱗片：りんぺん）にばらし（図2）、

寒冷地では9月中旬〜10月上旬、温暖地では9月下旬〜10月中旬に植え付けます。小片頂部を上マルチ穴（15cm間

図1 畑の準備

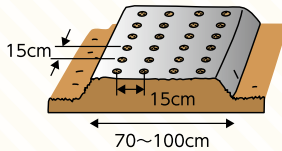
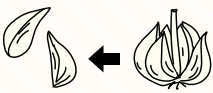


図2 種球の準備



隔）に深さ5cm程度に浅く植えます（図3）。

【わき芽かき】 芽出し後に1株から2芽以上出たときは、生育の良い1芽を残して、

手で早めにかき取ります（図4）。

図4 わき芽かき

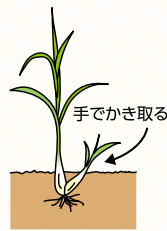
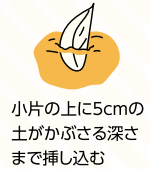


図3 植え付け



【追肥・花蕾（からい）摘み】 成長が再開する翌春2月と3月に1平方m当たり化成肥料50g程度を追肥しますが、マルチ栽培では所々穴を開けておきます。とう立ちしてつぼみが付いたら、球の肥大に影響があるため花蕾を早めに摘み取ります。畑の乾燥に弱いため、特に春先からの灌水（かんすい）が必要です。

【収穫】 初夏になり、葉が半分くらい枯れたら、晴天日に抜き取って根を切り落とし、畑で2〜3日乾かします（図5）。その後、

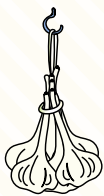
茎を30cmほど残して切り取り、10球程度を束ねて風通しの良い軒先などに干

ります（図6）。

図5 収穫



図6 貯蔵



※関東南部以西の平たん地を基準に記事を作成しています。

栽培計画

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
露地普通栽培						🌱			🌱			

🌱 植えつけ 🌾 収穫



ニンニクは安定して収穫できる野菜です。「ホワイト六片」という品種は、よく国産ニンニクとして出回っています。ぜひ自分で育ててみてください。

〈植え付け〉

ニンニクの種球はなるべく大きなものを選び、鱗片の芽（尖っている方）を傷つけないように注意しましょう。

通常植え付ける際は、この鱗片の皮を剥かないようにして植え付けますが、皮は水分をはじくのでそのまま植えると土中の水分を吸いにくくしているため、それだけ発育も遅くなります。皮を剥くことにより早く発芽する性質を使えば、遅植えの際に発芽が促進されますし、逆に土壌の水はけがあまりよくない土地と、皮はつけたままの方が病気にかかりづらくなるでしょう。

〈病害虫〉

さび病や葉枯病などがあります。『ダニール1000』や『ジマンダイセン水和剤』などで発生前の予防散布で対応しましょう。

JAグリーン津店が栽培のポイントを教えます！

JAグリーン津店
グリーンアドバイザー認定 城博一